

平成 22年 5月 10日現在

研究種目：基盤研究(B)
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19320052
 研究課題名（和文） 文化大革命の文化史的再考

研究課題名（英文） Re-examining the Cultural Revolution— in the Perspective of the Cultural History

研究代表者

佐治 俊彦

(SAJI TOSHIHIKO)

和光大学・表現学部・教授

研究者番号：70100435

研究成果の概要（和文）：1966年から76年の十年間、中華人民共和国を席卷した文化大革命（「文革」）について、日本の中国現代文学研究者が中国現代史の研究者と連携して総合的に研究を進め、激動の歴史を生きた中国知識人に焦点を当てて問題を整理し、その文化史的意味を考察し直した。2007年8月と2009年3月に、中国（上海・スワトウ・北京）を訪問して資料を収集し、聞き取り調査をした。また、野村浩一氏、小島麗逸氏、加々美光行氏を招き、公開講演会を開いた。これらの研究活動は報告集にまとめた。

研究成果の概要（英文）：Ten years from 1966 to 1976, the Cultural Revolution was sweeping China. Researchers in modern Chinese literature, in collaboration with researchers in modern Chinese history, to organize the issue focuses on the Chinese intellectuals who lived through turbulent history, re-examined the cultural meaning of the Cultural Revolution. From 2007 to 2009, researchers visited China (Beijing, Shanghai, Shantou), collected data, and interviewed. NOMURA KOUICHI, KOJIMA REIITSU, KAGAMI MITSUYUKI were invited to hold a public lecture. They showed a unique perspective on the Cultural Revolution. These research activities are summarized in the report collection.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2008年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2009年度	1,700,000	510,000	2,210,000
年度			
年度			
総計	9,400,000	2,820,000	12,220,000

研究分野：中国文学

科研費の分科・細目：

キーワード：中国・文化大革命・知識人・紅衛兵

1. 研究開始当初の背景

本研究を申請した 2006 年は文化大革命開始から 40 年、集結から 30 年にあたる年であった。この年、研究代表者の所属する和光大学では、文化大革命再考を共通テーマとする日本現代中国学会全国学術大会の開催校となり、そのシンポジウム運営に尽力した。それに関わった研究者によって、シンポジウムでの討議を深め継続して研究を進めることの重要性が確認され、本研究を申請するに到った。その際、中国知識人の問題を文化、文学の分野で研究してきた丸山昇『文化大革命に到る道』の仕事を継承し、文革期の中国知識人に焦点を当てる意義が強調された。

2. 研究の目的

- (1) 文化大革命はその構造や状況の進展、終結後の処理などの諸相、人々に残された内面的影響、文学に現れた表現などの各面において、ナチズムや日本の戦争責任問題、9・11 以後の世界情勢などとも関連する問題を内包している。文化大革命をこのような現在の問題としてとらえ、この問題意識を共有する研究者の共同研究によって、広く文化史のなかに文化大革命を総合的に位置づけることをめざす。
- (2) 文化大革命終息宣言から 30 年を経て中国でも関係者の回想や資料が公開されるようになったが、正面から研究することは許されていない。しかも、中国国内では文化大革命を知らない世代が多数を占める。いまこそ日本において、文化大革命について資料を調査・整理し、文化大革命の基本資料を整えることが重要な課題である。そのために、まず、「文化大革命関連資料目録」を作成する。
- (3) 現在の中国知識人にとって文化大革命はどのような意味を持っているのか、また、どのように理解されているのか、その体験者や中国研究者との交流を進め、記録するとともに、それを日本の研究者に提供していく。
- (4) 文化大革命研究は北京・上海での動きを研究対象とすることが多かったが、地方都市、とくに少数民族自治区など、マイナーにとって文化大革命がもっていた暴力的な側面にも注目して文化大革命の諸相を明らかにす

る。

3. 研究の方法

- (1) 文化大革命関連資料を収集する。国内外で発行された図書、電子テキストを購入し、研究機関の和光大学附属梅根記念図書・情報館に集中してまとめる。それとともに、中国への調査旅行で入手した資料や本研究会メンバーが個別に収集している資料をまとめて目録を作成する。
- (2) メンバーを「文学」「思想」「社会・歴史」の 3 グループに配置し、それぞれのグループで研究会や情報交換の場を設け研究を深め、その上で公開の全体会を開き、大きな視野で専門研究を見晴らす。
- (3) 文学分野以外で、これまで文化大革命研究に大きな成果を出している研究者、文化大革命に同時代に取り組んでいた研究者を講師として、公開の講演会を開催する。
- (4) メンバーが一団となり中国への調査旅行を実施する。実際に体験談を聞き、また中国国内で文化大革命研究を進めている研究者と交流する。

4. 研究成果

(1) 中国訪問調査の成果

①2007 年 8 月 25 日～9 月 2 日に実施した中国訪問調査で、スワトウ大学・上海大学・復旦大学の研究者・文革体験者と座談会を開いた。スワトウでは、中国唯一の「文革博物館」館長である陳方競氏、著名な魯迅研究者の王富仁教授ら会談する中で、「いまでは文化大革命において指導的幹部がどれだけ迫害されたかは大いに語られているが、そういった幹部たちがそれまでどのように庶民に対処してきたかは語られず、これでは文化大革命を見極めることは出来ない。」「さらに多数の言葉なき人々がいる。」など、中国知識人がいかに声なき庶民にとっての文革という視点を重視しているかが明確になった。上海大学での座談会では、中国側から中国現代史全体に文革の意味を問い直す視野が示され、文革におけるモダニティと中国独自性の輻輳した状況が確認された。復旦大学との座談会では、文革時期を特異な時期として考察するだけでなく、特に文芸創作の面

では、文革以前との連続性に注意すべきことを中国側が強調した。

②2009年3月13日～17日に清華大学と北京大学で座談会を開催した。清華大学における文化大革命研究に顕著な業績のある唐少傑氏、「紅衛兵詩の研究者王家平氏、さらに文革前から活躍していた詩人の牛漢氏、文革中その詩作が広く流布した食指氏、下郷した知識青年たちの文学サークルの地、白洋淀で活躍した芒克ら詩人たちやその研究者劉福春氏らとの交流会を行った。北京大学で現代文学を専攻する若手研究者からは子どもの目からとらえた文化大革命について聞き取りを行った。

(2) 公開講演会の成果

①2007年6月30日(本郷、ホテル機山館)に公開講演会では、文化大革命を同時代の出来事として研究対象としていた野村浩一氏を招き、50年代から70年代の日本における中国研究の環境と日本の研究者の問題意識について回顧し、中国における権力の問題、中国社会の持つアナーキーな性格、そのような政治風土を念頭に、どのような問題をたてていくかが語られた。会場からは近代化に絡む質問が多多寄せられ活発な討論と成った。

②2008年2月23日(本郷、ホテル機山館)に開催した公開講演会では、中国経済研究者小島麗逸氏を招き、「現時点における文革評価私見」と題するレクチャーをお願いした。小島氏が文革に対して直感的に持ったプラス評価範は何に由来したのか、それに疑問を持つようになったのはなぜか、中国を見るときに認識の偏りにはどのように生まれたのか、などの点が率直に語られた。質疑応答の中で、文革中の経済は平均で6から7%成長していること、それが軍事経済化していたこと、ソ連からの攻撃を前提とした時代だったことが確認された。さらに、講演者の文革研究の根底にあった民衆へのまなざしから、今日の民衆生活についてリアルな報告がなされた。

③2009年2月21日(本郷、ホテル機山館)には、愛知大学教授加々美光行氏を招き、「中国文化大革命の新たな視角：林彪事件と国際戦略を事例として」と題する講演を依頼した。講演者は、ユン・チアンなどの毛沢東狂人説ともいえる俗説を否定し、世界的な視野で見たときに文化大革命における毛沢東らの行動がいかにより合理的判断に基づいているかを明確にした。

(3) 総合研究会報告の成果

①中国での代表的な文革研究書について書評を行った。王家平『紅衛兵詩歌研究』、牛漢『我仍在苦苦跋涉 牛漢自述』、牛漢

『拒絶遺忘—1957年学研究筆記』、唐少傑『一葉知秋：清華大学1968年百日大武闘』について、概要紹介と批評を行った。

②近年、日本で出版された主要な文革研究書の書評を行った。取り上げたのは、国分良成編著『中国文化大革命再考』、訳書『文革 南京大学14人の証言』、福岡愛子『文化大革命の記憶と忘却』などである。

③2007年9月21日～22日に熊本学園大学で開催された「文革期文学国際研究学術討論会」に参加した。中国で活躍中の当代文学研究者王堯氏、韓国の金龍雲氏と交流した。

④少数民族にとっての文革、地方にとっての文革について、研究会で佐治俊彦訳『地球宣言』の紹介があった。

(4)「文化大革命関連資料目録」作成
文化大革命関連資料の収集に努め、目録を作成した。その成果は『『文化大革命の文化史的再考 2009年度研究会記録／文化大革命関連書籍・資料目録』(5. 主な発表論文等 [その他] 参照)に収め、国内外の現代中国研究者に送付した。

(5) 成果の国内外での位置づけ

①成果の(1)にあるように、中国と日本の研究者が共同で文化大革命について率直に語り合う場を設定することはこれまで非常に難しかった。本研究会の成果は貴重な日中研究交流の実践であったと言える。

②日本国内においても、文化大革命を同時代にどのようにとらえていたかによって、研究者の間にある種の線引きがなされていたが、本研究会では、様々な立場の研究者に公開講演を依頼することで、当時の視点がどのように生まれてきたか、それが今の中国を見るときにどのように影響しているのか、立場の違いを歴史的に理解し、それによって複合的な中国へのアプローチを確保した。

(6) 今後の展望

中国知識人にとっての文化大革命という点により焦点を絞り、「文化大革命と中国の知識人」というテーマで課題を継承する研究会を組織し、研究活動を行っている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計19件)

1. 佐治俊彦、「内モンゴル文学管窺——リグデン文学から覗く内モンゴルの文学と生活」、『境界に生きるモンゴル世界』、八月書館、

- 2009年、367～391頁、査読なし。
2. 宇野木洋、「「文芸思想闘争」の実態に関わる研究の現在—李向東・王增如『丁陳反党集冤案始末』の紹介を兼ねて—」、『野草』第84号、2009年、82～95頁、査読あり。
 3. 代田智明、「竹内好『近代とは何か』『近代の超克』再読」、『中国研究月報』第63巻第7号、2009年、1～13頁、査読あり。
 4. 小谷一郎、「ふたたび一枚の写真か——王道源、そして「青年芸術家連盟」のことども」、埼玉大学大学院博士後期課程紀要『日本アジア研究』第6号、2009年、85～106頁、査読なし。
 5. 加藤三由紀、「1978年前後の中国小説——傷痕文学再評価」、『現代中国』第83号、2009年、51～58頁、査読あり。
 6. 加藤三由紀、「ある農民の六〇年——『農民日記』を読む」、『季刊中国』第96号、2009年、68～76頁、査読あり。
 7. 加藤三由紀、「八十年代文学再考—「重返八十年代文学」に寄せて」、『日本中国当代文学研究会会報』第22号、2008年、41～43頁、査読なし。
 8. 岩佐昌暲、「「帰来」という主題—八十年代中国詩の一面—」、『九州中国学会報』第46巻、2008年、76～90頁、査読なし。
 9. 白井重範、「「漠然」とした「友好」の図」、『葦牙ジャーナル』第76号、2008年、2～7頁、査読なし。
 10. 岩佐昌暲、「中国と日本：中国現代詩学的昨日と今天」、『文芸研究』2007年第6期、2007年、61～71頁、査読なし。
 11. 代田智明、「魯迅における「復讐」と「終末」」、『野草』第79号、2007年、1～16頁、査読あり。

〔学会発表〕（計6件）

1. 宇野木洋「「近代(性)」(モダニティ/“現代”)をめぐる視角から—文学・思想領域として—」、2008年6月15日関西大学、日本現代中国学会・関西部会大会
2. 岩佐昌暲「転形期1978年を再考する—詩から」、2008年10月19日東京大学、日本現代中国学会第58回全国学術大会
3. 加藤三由紀「転形期1978年を再考する—小説から」、2008年10月19日東京大学、日本現代中国学会第58回全国学術大会

〔図書〕（計12件）

1. 姫田光義『林彪春秋』、中央大学出版部、2009年、1～424頁、査読なし。
2. 佐治俊彦、リグデン著『地球宣言——大草原の偉大なる寓話』(翻訳)、教育史料出版会、2009年、1～508頁、査読なし。
3. 西野由希子、「劉以鬯「對倒」と1970年代の香港文学」、『「読み・書き」から見た香港の転換期 1960～70年代のメディアと

社会』、2009年、明石書店、79～102頁、査読なし。

4. 宇野木洋、「問題としての近代から見た「毛鄧時代」—ポスト文革期の文化批評領域をめぐる予備的考察—」、日本現代中国学会編『新中国の60年—毛沢東から胡錦濤までの連続と不連続—』、創土社、2009年、161～185頁、査読あり。
5. 松浦恆雄、「新しい「民族形式」の創造と文明戯」、『文明戯研究の現在』、東方書店、2009年、235～250頁、査読なし。
6. 宇野木洋、「状況/理論としてのポストモダンとポストコロニアル—台湾との「対話」—」、松浦恆雄等編『越境するテキスト—東アジア文化・文学の新しい試み—』、研文出版、2008年、26～36頁、査読なし。
7. 坂井洋史、「都市文化・大衆音楽・現代性」、『当代東亜都市——新的文化意識形態』、上海書店出版社、2008年、243～271頁、査読なし。
8. 坂井洋史、「記憶・歴史・文本—与周立民商榷」、『細読《随想録》』、上海社会科学出版社、2008年、98～113頁、査読なし。
9. 岩佐昌暲、「文革期の小説『生命』とその批判について」、『吉田富夫先生退休記念中国学論集』、汲古書院、2008年、371～383頁、査読なし。
10. 岩佐昌暲、「紅衛兵時代の出版物とその保存」、磯部彰編『東アジアの出版と地域文化——むかしの本のものごと』、汲古書院、2008年、125～162頁、査読なし。
11. 岩佐昌暲、「流沙河「草木篇」批判始末」、山田敬三先生古稀記念論集刊行会編『南腔北調集』、東方書店、2007年、511～538頁、査読なし。

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕

『文化大革命の文化史的再考 2007年度研究会記録』2008年3月発行

収録論文・資料

- ・野村浩一氏講演（2007年6月30日）記録
- ・書評：国分良成編著『中国文化大革命再考』（慶應義塾大学出版会2003年）（中津俊樹）
- ・上海・スワトウ調査研究記録（2007年8月25日～9月2日）：王富仁氏講演・スワトウ大学座談会記録・上海大学座談会記録・復旦大学座談会記録
- ・熊本学園大学文革期文学国際研究学術討論会記録（2007年9月21日～22日）：「文化大革命記文学研究国際学術集会」について・会議議程（岩佐昌暲）・關於文革時期文学研究的若干基本問題（王堯）・紅衛兵

詩歌的矩陣結構（金龍雲）・什麼是文革時期文學（岩佐昌暲）

- ・記憶・歴史・文本（坂井洋史）
- ・小島麗逸氏講演記録（2008年2月23日）

『文化大革命の文化史的再考 2008年度研究会記録』2009年5月発行

収録論文・資料

- ・加々美光行氏講演記録（2008年9月21日）
「中国文化大革命の新たな視角：林彪問題と国際戦略を事例として」
- ・王家平『紅衛兵詩歌研究』概要とメモ（代田智明）
- ・牛漢『我仍在苦苦跋涉 牛漢自述』を読んで（近藤龍哉）
- ・文化大革命時代の現代詩（松浦恒雄）
- ・朦朧詩について（岩佐昌暲）
- ・銭理群の文革（断片）（白井重範）
- ・銭理群の1957年学について（佐治俊彦）
- ・唐少傑『一葉知秋』（中津俊樹）
- ・北京調査旅行記録（2009年3月13日～17日）
- ・研究会の趣旨と目的（佐治俊彦）

『文化大革命の文化史的再考 2009年度研究会記録／文化大革命関連書籍・資料目録』2010年3月発行

収録論文・資料

- ・銭理群の戦略『拒絶遺忘：1957年学研究筆記』を読む（白井重範）
- ・研究会レポート（2009年9月26日）（福岡愛子）
- ・南京の文化大革命：董国強編著『文革 南京大学14人の証言』について（金野純）
- ・文化大革命時代の戯単（松浦恒雄）
- ・日本における文革期文学の研究状況（岩佐昌暲）
- ・文化大革命研究国際討論会報告提綱（中津俊樹）
- ・リグデン著『第三惑星の宣言（邦題：地球宣言）』の翻訳にたずさわって（佐治俊彦）
- ・科学研究費基盤研究（B）「文化大革命の文化史的再考」購入書籍目録（白井重範）
- ・中国文化大革命関連文献・資料目録（中津俊樹）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐治 俊彦 (SAJI TOSHIHIKO)

和光大学・表現学部・教授

研究者番号：70100435

(2) 研究分担者

岩佐 昌暲 (IWASA MASAOKI)

熊本学園大学・外国語学部・教授

研究者番号：60136546

代田 智明 (SHIROTA TOMOHARU)

東京大学・総合文化研究科・教授

研究者番号：60154382

近藤 龍哉 (KONDO TATSUYA)

日本女子大学・文学部・教授

研究者番号：40011374

小谷 一郎 (KOTANI ICHIRO)

埼玉大学・教養学部・教授

研究者番号：60136009

宇野木 洋 (UNOKI YO)

立命館大学・法学部・教授

研究者番号：40168737

松浦 恒雄 (MATSUURA TSUNEO)

大阪市立大学・文学研究科・教授

研究者番号：20173792

坂井 洋史 (SAKAI HIROFUMI)

一橋大学・言語社会研究科・教授

研究者番号：80196047

高見澤 三由紀 (TAKAMIZAWA MIYUKI)

和光大学・表現学部・教授

研究者番号：70204500

西野 由希子 (NISHINO YUKIKO)

茨城大学・人文学部・准教授

研究者番号：40262357

白井 重範 (SHIRAI SHIGENORI)

國學院大学・文学部・准教授

研究者番号：40365507

(3) 連携研究者

姫田 光義 (HIMETA MITSUYOSHI)

中央大学・経済学部・名誉教授

研究者番号：10096159